

ヨハネによる福音書21章15節 「わたしを最高に愛していますか」

1A 第一の戒め

2A 「これら」以上の愛

1B 153 匹の魚

2B 他の弟子たち

3A アガペとフィレオ

1B 自分の愛にまで降りて来られる主

2B 最高に愛すること

1C 新しい心

2C 一つ心

3C 優先する心

4C 犠牲の心

本文

ヨハネによる福音書 21 章を開いてください。ついにヨハネ伝の最後の章に入ります。午後に一節ずつすべてを見ますが、今朝は 15 節を中心にお話してきたいと思います。「彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなを愛していることは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」」

前回私たちは、イエス様が、週の初めの日に、弟子たちが部屋の中にいた時に、真ん中に現れて、ご自身が復活したことを示されたところを読みました。そこにトマスがおらず、彼は信じなかったため、八日目に再び現れました。そして、弟子たちは、主が予めから命じられていたように、ガリラヤに行って、そこで主に会うことになっていました。21 章は、そこでの逸話が書かれています。

私たちは教会で、四つの福音書を全て読み終えることになり、ついにイエス・キリストの生涯が離れることになり、感慨深いものがありますが、本当に主にあつて変えられる必要があることを示されました。使徒の働きに入るにあたって、ペテロを始めとする弟子たちにイエス様が何を求めておられるのかが、ここで語られています。それは、「わたしを愛していますか」という言葉です。

1A 第一の戒め

ヨハネは、他の福音書と比べると、神の愛、キリストの愛を多く語っています。第一の手紙には、「神は愛(4:16)」と言っており、神には愛があるとか、神は愛に満ちた方とか、そういった属性ではなく、神は愛そのものであられるという、本質なんだということを語っています。イエス様が、エルサ

レムの神殿にて、律法の専門家から、「マタ 22:36 律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」と尋ねられた時に、申命記 6 章 5 節を引用されました。「22:37 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」心という、感情の奥深い部分においても、いのちとありますが、生活そのものと言ってよいでしょう、力を尽くしてと言ってもいいでしょう、そういった物理的な面においても、そして、知性においても、自分の全人格と全性格すべてにおいて、あなたの神、主を愛しなさい、というのが、重要な第一の戒めだと言われました。十戒において、第一の戒めが、「出エ 20:3 あなたは、わたし以外に、ほかの神があつてはならない。」とあり、最も大事なものの、情熱を傾けているのが神ですが、主なる神以外に、そのようなものがあつてはならない、と言われているのです。つまり、どんなものよりも、主に対する愛が最高のものでありなさい、ということです。他にも、いろいろな愛着や情熱があるでしょう。けれども、それらのあらゆるものから、主こそが最高に愛する方であり、他のものは二の次、三の次にしなさい、ということです。

2A 「これら」以上の愛

話をヨハネ 21 章に戻しますと、ペテロと弟子たちがガリラヤに来るも、まだそこでイエス様が現れるわけでもなく、久しぶりの故郷だったのではないのでしょうか、ペテロは、「私は漁に行く」と言いました。他の弟子たちも一緒に行きましたが、夜の間、全く何も捕れませんでした。夜明けになってきた時に、なんと、イエス様が岸边に立っておられて、「食べる魚がありませんか？」と声をかけるのです。この時に弟子たちは、まだイエス様だと分かりませんでした。そして、「21:6 舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば取れます。」と言われます。そうしたら、おびただしい数の魚で網を引き揚げることさえできませんでした。

すると、ヨハネが気づきます。「主だ！」かつて、主がペテロやヨハネ、またヤコブをご自分の弟子としてついて来るように召されたことを思い出したのです。そしてペテロは、ほとんど裸状態だったので、上着を着て、なんと泳いで岸边にいったのです。そして、舟も岸边に着き、数えたら 153 匹もの大きな魚が捕れていました。すでにそこには、炭火がおこされていて、イエス様は魚とパンを焼いておられたのでした。そして、「21:10 今捕った魚を何匹か持って来なさい。」と言われました。

そして、15 節のイエス様の言葉になるのです。「彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」」ここで、新改訳や他の日本語訳も、「この人たちが愛する以上に」と訳されています。このギリシア語は、「これら以上に」としか書かれておらず、「これら」とは何かは、解釈にゆだねられています。

1B 153 匹の魚

もし、「これら」が、その 153 匹の魚だったらどうでしょうか？これらの魚以上に、すなわち、あなたの大好きな漁以上に、あなたはわたしを愛していますか？という問いかけになります。イエス様

は、「マタ 26:32 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」ですから、イエス様が現れることを期待して、ガリラヤに戻りました。けれども、到着してもイエス様は現れていなかったようです。それで、「21:3 私は漁に行く。」とっていました。彼は、漁師としての血が騒いだのでしょう。彼がいかにか漁が好きだったかは、宮の納入金を徴税に来た人に支払うために、イエス様がペテロに、「マタ 17:27 湖に行つて釣り糸を垂れ、最初に釣れた魚を取りなさい。その口を開けるとスタテル銀貨一枚が見つかります。」と言われたほどで、何かがあれば釣り、です。

釣り自体は何ら悪いものではありません。それは彼にとって生活の糧であり、職業としての誇りであり、情熱でした。しかし、もしそれが主に対する愛に優るものとなっているならば、また釣りに対する関心や情熱によって、主への愛が忘れ去られるのであれば、それはつまずきとなり、妨げとなるのです。

私は、思い出すに、信仰を持っていた時は、大学で英語サークルに入っていました。ディベート部門に所属し、その世界に魅了されました。そこでの人間関係の悪化がきっかけで、信仰を持ったのですが、毎週、日曜日に試合、大会がありました。春休みに信じる決断をしましたが、それは、もし学校が始まって、サークルも再開したら、たぶん教会からも、ましてや信仰からも離れてしまうだろうと自分でも恐れていたからです。けれども、信仰を持ってからも一年ぐらひは、夕方の礼拝に出席していましたが、しっかりと日曜日は礼拝に、心も体も捧げたいと思い、大会に出ることは控えたのです。けれども、その世界のことを思い出すと、血が騒ぎます。今は、ユーチューブ動画で、大本のアメリカの大学ディベートが見られますから、思い出してしまいますね。

私たちが愛しているものは、それぞれが違ふと思います。ある人にとっては、趣味でしょう。これをやっていたら全て忘れられるというものがあるかもしれません。ある人にとっては、持ち物かもしれません。これを持っていることが自分を絶頂の気分にするものがあるかもしれません。知的なものもあるでしょうし、感覚的なものもあるでしょう。あるいは、誰かを愛するという人間関係かもしれません。仕事の帰りのお酒が本当に楽しいひと時かもしれませんね。また、多くの人にとっては、自分の仕事そのものがそれに当てはまるでしょう。自分の一部になっていて、仕事から離れたら今の自分はどうなってしまうだろう？というものがあるかもしれません。それらが、必ずしも罪とは限らないのです。しかし、それが主ご自身への思い、主ご自身へ献身と比べるとどうでしょうか？

テレビであれば、何時間も見てしまうのに、主との時間は 10 分取るのが苦痛だ、ということにはなっていないでしょうか？どんなに具合が悪くても、大好きなことのためには、何とかして体を直して、いや直らなくても取りかかるのに、主への礼拝については、ちょっと頭が痛くなってきたなと思ったら、待ってましたとばかりに、礼拝は休んでおこうというようになっていないでしょうか？主への礼拝が、毎週、本当に楽しみだというようになっているのでしょうか？もちろん、感情的に高揚する必要はないのですが、静かに、心にある情熱として、主への礼拝こそが自分を突き動かす原動力と

なっているのでしょうか？それが、これらのこと「**以上に、わたしを愛していますか**」という問いです。

2B 他の弟子たち

あるいは、ここで訳されているとおりに、「**この人たちが愛する以上に**」という意味かもしれません。すうであれば、イエス様は、ペテロが豪語したあの言葉を思い起こさせているのかもしれませんが。「マルコ 14:29 たとえ皆がつまずいても、私はつまずきません。」ペテロは、常に人々に先んじて、率先して動いてきました。水の上をイエス様が歩いて行かれた時に、「マタ 14:28 主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言いました。そして、イエス様につまずいて、多くの弟子が去って行った時に、ペテロは、「6:68 主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。」と答えました。そして、ピリポ・カイサリアにおける、「マタ 16:16 あなたは、生ける神の子キリストです。」があります。このように、信仰的に先んじている、人々を引っ張って行っているように見えます。

この直情的なところ、すぐに動くところは、時に彼を自慢するような原因にもなりました。金持ちの青年が悲しんで去って行った後に、イエス様が、金持ちが神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るより難しいが、救いは、人にはできないが、神にはできると教えられました。ところがペテロは、「マルコ 10:28 ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。」と言いました。自分たちの献身を誇っていたのです。また、誰かが罪を犯したなら、言って二人だけのところで指摘しなさい、ということをお話になり増し増し多。すると、ペテロは、「マタ 18:21 主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」と言うのです。率先して、自分は霊的に他の弟子たちより進んでいるのだという面を出していました。それで彼の言った言葉が、「たとえ皆がつまずいても、私はつまずきません。」であったのです。

ですから、イエス様の三回尋ねられる言葉、「あなたは、わたしを愛していますか。」は、ペテロの三回、イエス様を知らないと言った言葉に呼応している、とも考えられます。それは、ペテロに悔い改めの機会を与えたとも言えるし、彼にへりくだりをもたらず機会ともいえるでしょう。

3A アガペとフィレオ

1B 自分の愛にまで降りて来られる主

いずれにしても、イエス様がペテロに、三度、「**わたしを愛していますか**」と尋ねておられます。この時に、ギリシア語でないと分からない会話となっています。

「愛している」という言葉ですが、ギリシア語には、エロスがあります。これは肉体における愛です。自分中心の愛ですね。男が女に、「愛している」という時に、女を愛しているのではなく、自分自身を愛していると言い換えることができます。次にフィレオがありますが、これは友愛とも言えます。精神における愛、あるいは共通の目的がある時の愛であり、「大好き」と言い換えることができ

ますね。そして、「アガペ」があります。これは霊的な愛です。「あなたが、これをしてくれるから、愛します」という条件がありません。犠牲の愛であり、無私の愛です。先に、イエス様が申命記6章5節の引用でマタイにある「22:37 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」という言葉は、アガペが使われています。神との関係の愛であります。

そこで15節から17節までを、愛している部分をギリシア語に言い換えて呼んでみます。(アガペの動詞は、アガパオーです。)
「15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する(アガパオー)以上に、わたしを愛していますか(アガパオー)。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛している(フィレオー)ことは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」
16 イエスは再び彼に「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか(アガパオー)」と言われた。ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛している(フィレオー)ことは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」
17 イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか(フィレオー)」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか(フィレオー)」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛している(フィレオー)ことを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

イエス様は、一度目と二度目に、「わたしをアガペの愛で愛していますか。」と尋ねておられるのですが、ペテロは、「フィレオーしています」と答えているのです。「あなたが大好きです」と言っているにしかすぎません。そこでイエス様は、三度目には「わたしをフィレオーしていますか」と尋ねられたのです。主イエスを、どんな犠牲を払っても、自分を捨てて愛するというアガペではなく、もっと表面的なフィレオーで愛しているとペテロが応答したので、イエス様はペテロと同じレベルに下がって三度目は問いかけられたのです。これは残念なことですね、主がご自分のいのちを捨てて、つまりアガペの愛をもって私たちを愛されたのに、私たちのほうがイエス様のことは大好き、で終わってしまっているのです、イエス様もその状態に合わせて付き合わざるをえないという状態です。

私たちは、何か自分自身の中に自分への愛を取って置いて、そしてイエス様を愛していますと表明しているところはないでしょうか？

2B 最高に愛すること

私たちのために、私たちの主イエスは、すべてを明け渡して、父なる神に従われました。その愛に留まるには、私たちもすべてを主に明け渡して、この方に満たされることです。

1C 新しい心

第一に、私たちは自分の力では、全く主を愛することも何もできないことを覚えなさいといけな

すね。どうすれば、愛せるのだろうか？と思う時に、イエス様が言われた言葉を思い出しましょう、「6:29 神が遣わされたものをあなたが信じること、それが神のわざです。」主を信じるということ、これならできますね。どんなことがあっても、この方に全幅の信頼を寄せるのです。そして、その時に御霊が与えられる約束があるのです。御霊が与えられる時に、人の心はどんなに硬くても、石のように固い心でも、肉のように柔らかくなる、新しくされることを主は教えておられます。「エゼ 36:26-27 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。」

御霊によって、初めて神の愛が分かります。罪人のために、神がキリストを死に渡されたという、その愛が分かります。そしてその愛を知ることによって、初めて全て自分を主に明け渡すことができます。御霊によって心も思いも一新することができます。神を愛すること自体も、神の業です。

2C 一つ心

第二に、心が二つになっているところを一つにさせていただかないといけません。主を愛しているだけでなく、主のみを愛する。一途になる、ということです。一方で主を愛して、もう一方で他の物を愛している、ということがよくありますね。それを偶像と呼びます。旧約時代には、人々は自分の愛しているものをそのまま、偶像にして表しました。刺激的なもの、興奮されるものを求めている人は、モレクという神がいました。お金が一番大事だと思っていたら、それはマモンという神でした。知的なこと、または力を持ちたいと思ったらそれはバアルでした。性欲に取りつかれている人は、アシュタロテを拝んでいました。イエス様の時代、これらの目に見える偶像はなくなりましたが、「姦淫の時代」と呼ばれましたね。それは、心ではこれらのものを求めているということです。

こうした二心は、関係が続きません。相手が二股だと分かったら、その関係は一挙に終わりです。この人は自分の味方ではないと分かったら、信頼関係はなくなります。主も何度となく、生贄を捧げているのに不法な行いをしているイスラエルの民について、そのいけにえや祭り、祈りを嫌うことを語られました。ヤコブは、手紙の中で、ゆえに心一つにすべく、悔い改めを促しています。「ヤコブ 4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪人たち、手をきよめなさい。二心の者たち、心を清めなさい。」そして、ダビデは祈りました。「詩 86:11 【主】よあなたの道を私に教えてください。私はあなたの真理のうちに歩みます。私の心一つにしてください。御名を恐れるように。」

そして聖書は、神と心一つにしたわずかな者たちを通して、神が大いなる御業を成されているのを見ます。何万人の二心の人たちがついていくよりも、直向きな心、神と心一つにしてる人たちがわずかにいるほうが、神がそこにおられることを証しているのです。

3C 優先する心

第三に、私たちは、自分の愛しているものがあり、しかしイエス様を第一にして愛する時に、「憎む」とイエス様が言われたように決断する必要があります。「ルカ 14:26 わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。」家族の絆はとても強いものです。それ自体は最も自然なことであり、大事にしなければいけないものです。聖書は親を敬い、子を育て、妻を愛し、夫に従うことを教えています。しかし、彼らに対する愛が、イエス様の愛より優先するならば、その時はその愛を退けて、イエス様を選び取るという決然とした態度が必要です。これが、ここで主が言われている「憎む」です。

私は、高校生三年生の時からキリスト教に興味を持ち始めました。そして、クリスチャンになるということになることを考えたら、親を裏切るのではないかと恐れました。そこで、イエス様が、家族よりもご自身を愛することによって、初めて弟子になることを教えられている言葉があり、従いました。「最大の親孝行は、親にキリストを知らせることだ。」と決めました。そのために、確執が起こることは避けられないと思っていました。そして親が 2003 年に救われました。これが、優先することです。イエス様を優先する時に、初めて親はイエス様に会う機会が与えられ、イエス様が親に語られるのです。

4C 犠牲の心

最後に第四に、私たちは自分の状況がたとえよくなかったとしても、苦しみにあっても、それでもなお主を愛することを告白する、犠牲の心が必要です。イエス様は、三度、「わたしを愛していますか。」と尋ねられた後に、こんなことを言われました。「21:18-19 まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」イエスは、ペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示すために、こう言われたのである。こう話してから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」ペテロは、最後に殉教します。伝承では、逆さ磔になって死んだと言われています。それでも、イエス様への愛を表明したのです。そうです、結婚で、しばしば苦しみの時に二人の愛の真価が試されると言われますよね。イエス様への愛は、私たちが試練の時に、むしろそれが本物であることが試され、清くされるのです。

イエス様は、エペソにある教会に言われました。「黙 2:4-5 あなたは初めの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたのかを思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。」イエス様をアガペーしていますか？ そうでないものがあれば、どうか、私たちをアガペーで愛してくださったイエス様にすべてを明け渡してみましょ。